



アジア経済 タイ名門大と活発討論

チュラロンコン大の16人初来日し国際シンポジウム開催

中央大学はタイの名門大学、チュラロンコン大の学生ら16人を招き、1月15日、多摩キャンパス2号館マルチメディア教室で両国学生による国際シンポジウムを開いた。中大での同企画開催は初めてだった。

中大経済学部・長谷川聰哲教授(国際経済政策)が長年築いたチュラロンコン大経済学部との友好関係は学生の国際交流に発展し、毎年のようにゼミやグローバルフィールドスタディーズなどさまざまな形で意見交換を続けてきた。

2014年には両大学間で「機関間協定」を結び、学生の国際的交流はさ

らに活発化した。

これまではタイを訪問してのシンポジウム開催であったが、今回初めて本学での開催となった。

学生シンポジウムは双方の大学各2チームが、カラー映像を駆使したプレゼンテーションをそれぞれ40分ほど展開した後に質疑応答に入った。

注目度が高まるアジアの拠点の一

つ、東南アジア諸国連合(ASEAN)が抱える国際経済問題、産業振興などをテーマに活発な意見交換がなされ、同日夕の交歓パーティーではいっそう親交を深めた。

発表は双方、英語で行い、日本語の会話はほとんど聞かれなかった。今後は交換留学制度などさらなる交流が検討されている。



チュラロンコン大学は1917年にラーマ6世により、タイにおいて初めて設立された国立大学である。広大なキャンパスはタイの首都バンコク中心部に位置し、大学名はタイの現代教育の基礎を築いたチュラロンコン王(ラーマ5世)に由来している。19の学部、23の大学院・研究所を持ち、38,000人を超える学生が学んでいる。



まもなく創立100年

チュラロンコン大学は首都バンコクの名門大学。1917年に国王ラーマ6世が創立したタイ王国初の高等教育機関。同大経済学部の英語による講義・プログラムは高い関心を集めて、経済学関連のカリキュラムの充実さもよく知られている。

日・タイ学生シンポジウム

刺激しあう両国の学生交流

長谷川ゼミ 中畑敦(経済学部4年)

今回招いたチュラロンコン大学はタイではトップの大学であり、多くの優秀な人材を輩出している。

同大学経済学部と中大・長谷川聡哲ゼミナールとは4年前から交流があり、毎年、長谷川ゼミ生が同大を訪問。相互に研究内容を発表している。私たちも昨年12月17日にバンコクで2つの論文発表を英語で行った。

この発表に向けた共同論文の準備のために、午後11時近くまで学校に残り、文献の輪読やデータの収集、論文の執筆を行うことも少なくなかった。

共同論文の作成という一つのプロジェクトをチームで協力して完成させたことは、大きな財産になった。積み重ねた努力は自信と結束をもたらさし、本番でも気後れすることなく発表できた。

無事に発表を終えた達成感は言葉では言い表せないものであった。しかし、タイの学生の英語力や発表のレベルの高さを目の当たりにし、私たちもまだまだ努力が必要だと強く感じた。

こうした経験は、大学内にいるだけではなかなか味わえるものではなく、良い経験になったと思う。発表後は食事をともにし、学業のことのみならず、国の文化や学生の趣味などを語り合い、親睦を深めた。

タイの学生たちはシンポジウム終了後、バンコクを案内してくれた。たった1日だったが、互いにとても仲良くなれた。現在もLINEやFacebookなどSNSを通じて連絡を取り合っている。

2016年は、私たちがタイの学生をホストした。大学間では4年間の交流があるが、彼らが中大にやってくるのは初めて。初来日の学生も多く、訪問を楽しみにしていたようだった。

中大でのシンポジウムでも、それぞれの大学か

ら2つずつの研究発表を行った。発表や質疑応答は全て英語で行われた。会場はあふれんばかりの参加者で、通常の授業とは一味違う雰囲気にも包まれた。

一般学生や教員の方々にも多数参加していただき、議論は白熱したものになった。終わった後の食事会では、既に一度会っているせいか、とてもフランクに会話することができ、有意義な時間になった。

市内観光ではタイの学生を東京・新宿に案内し、買い物を楽しんだ。彼らと別れるときは少し寂しい気持ちもあったが、日本を楽しんでくれたようで、私たちもとても満足している。

総じて、今回のシンポジウムは大成功であったと思う。海外の学生との交流は私たちに新たな刺激をもたらさし、自分を一歩成長させてくれた。

中大生には留学を含め、もっと海外に出ていくことを勧めたい。きっと有意義な経験になるだろう。

最後に、今回のシンポジウムの運営に協力してくださった経済学部長をはじめ、学部事務室の方々、最後まで一緒に論文執筆に取り組んだゼミ生の仲間たち、そして2年間熱心に指導して下さった長谷川先生に感謝の気持ちを述べて終わりとしたい。

